



出前講座報告書

平成30年12月20日 相双保健福祉事務所

地域診断の方法－PCM手法－

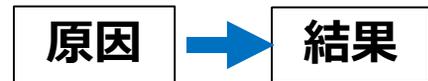
今回は、PCM（Project Cycle Management）手法の考え方をもとに、①事業計画の考え方、②事業のモニタリングと評価の視点について学びました。

講義・グループワークの様子①

午前には、事業計画を立てる上でのポイントと手順などを学びました。事業計画には問題と原因を整理することが重要であり、その関係を説明するための根拠が必要です。グループワークでは因果関係の整理、既存資料のデータからみえる問題を取り上げ原因を整理するプロセスを経験しました。



▲原因と結果を考える演習をしました。



▲重要：問題の整理の仕方（原因と結果の関係）



▲重要：事業計画までのプロセス（当日の講義内容をもとに作成）

～①講師紹介～



福島県立医科大学
健康リスクコミュニケーション学講座
日本学術振興会 特別研究員
小林智之

- ・ 略歴：同志社大学大学院 心理学研究科 博士後期課程修了（心理学博士）。福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座の特別研究員を経て、現在は日本学術振興会の特別研究員。
- ・ 専門領域：社会心理学、社会的認知、集団間関係

講義・グループワークの様子②

午後は、事業のモニタリング、事業評価の基本的な知識および必要性、事業の成果・特徴を伝えるポイントを学びました。グループワークでは、参加者が事業を評価する上で心がけていることを共有し、評価の視点について整理しました。

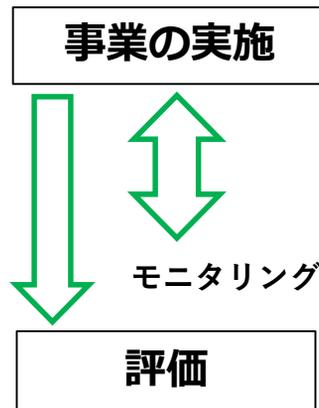
～②講師紹介～



福島県立医科大学
健康リスクコミュニケーション学講座
保健技師 吉田 和樹

事業の成果・特徴を 伝えよう！

- 略歴：福島県立医科大学大学院医学研究科修士課程修了。保健師・大学教員の経験を得て、福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座の保健技師、大学非常勤講師、保健センターに勤務している。
- 専門領域：母子保健（特に父親の育児）、高齢者保健、国際保健（カンボジアの子どもを対象とした健康教育）



▲重要：事業のモニタリング

*アンケート集計結果 参加者は21名、アンケート回収は19名。

| 評価項目 | そう思う* |
|-----------------------------------|-------|
| 研修の資料や進行について | |
| 配布資料は適切だった | 95% |
| 時間配分は適切だった | 95% |
| 進行は適切だった | 100% |
| 講義について | |
| 講義内容が理解できた | 89% |
| 講義は今後の保健活動に役立つと思う | 100% |
| 学んだことを同僚に伝えたいと思う | 89% |
| 話し合いについて | |
| 話し合いは今後の保健活動に役立つと思う | 84% |
| あなたご自身について | |
| 研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う | 58% |
| 研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う | 58% |

参加者の声 (一部抜粋)

- 原因と結果の因果関係を考えながら事業計画を考えていきたい。
- PCMをより詳しくやってみたいと感じました。

復習ポイント

- 事業計画ポイント（4つ）
- 事業評価の視点

*5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計

編集後記

出前講座を通じ、住民の健康課題にあった事業を計画することが重要であると改めて感じました。事業を計画をする上でつまづくこともあります。経験から学ぶことを大切にしたいと思います。（吉田）